

平成29年第4回土浦市国民健康保険運営協議会 議事録

- 平成29年12月26日（火） 10:00開会
- 出席者 10名
- 傍聴人 0名
- 過半数の出席が得られたので、本会議が成立する。（土浦市国民健康保険規則第4条第5項）

会 長

- ・ 会長挨拶
- ・ 議長は「岩井浩一会長」が務める。（土浦市国民健康保険規則第4条4項）
- ・ 議事録署名人は、議長により、金澤委員、角田委員が指名される。（土浦市国民健康保険規則第7条）

協議事項（1） 土浦市国民健康保険税率の改正について

- 事務局説明：別添資料に基づき説明

質疑

委 員  
(事務局)

- ・ 予算化するに当たり、収納率はどのくらい見込んでいるのか。
- ・ 前年度と同じ87.6%程度で見込んでいるが、31年度以降は、少し上乗せをして計算している。

委 員

- ・ 住民は転出転入等の変動があり、国保加入者にも変動があるため、各年度の被保険者間の負担の公平性を考えると、なだらかな増税がよいのではないかと思う。

委 員

- ・ 保険税を一気に上げるより、シミュレーションのパターン2のように、ゆるやかに上げたほうがよいと思う。

委 員  
(事務局)

- ・ 消費税の増税による影響は考えているのか。
- ・ 平成31年度に消費税が上がるが、今回のシミュレーションでは、消費税増税は見込んでいない。

委 員  
(事務局)

- ・ 県の納付金は、何を基礎に算定されているのか。
- ・ 県全体にかかる医療費を基礎にして算定し、医療費水準、所得水準に応じて各市町村に配分している。

委 員  
(事務局)

- ・ いずれのパターンも、中間層が、かなり負担になるようだが、世帯が多いからか。
- ・ 土浦の国保は、1人世帯が一番多いが、所得が多い方と、そして均等割において、世帯人数が多い方は、どうしても、その上乗せが出てしまっている。
- ・ ただ、賦課限度額があり、今は、89万円が限度である。表の下の

	<p>ほうの所得が高い方は、すでに賦課限度額に近いと見られ、税率改正によってもほとんど税額が変わらないという状況である。</p>
<p>委員 (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各パターンの特徴はどのようなものか。</li> <li>・平成30年から平成35年までの6年間でみて、不足分合計額9億円に対して、どのくらいの伸び率で上げるかにより違いが出る。全体的にゆるやかにするか。初年度にどのくらいあげるのかというパターンである。(資料をもとに伸び幅等について説明)</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国保税を支払う立場からすると、最初から負担が増えることは大変厳しいと思う。ゆるやかに増税となるパターン2がよいと思う。また、消費増税の際には状況も変わってくるかもしれない。</li> </ul>
<p>委員 (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県への納付金は精算方式かどうか。</li> <li>・精算ではない。平成30年度の状況により、医療費の動向も考慮し、平成31年度、32年度の納付金が算定され、もし平成30年度で剰余金がでるようなことがあれば、平成32年度の納付金の算定基礎額を下げる方向で働く可能性がある。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土浦市の人口が減っており、低所得者も多いことから、ゆるやかな増税がよいと思う。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費を下げるという観点も必要である。自分たちの負担を知らしめれば、自分たちで支払っていく意識を持ち、また、無駄な医療費を減らすこともできるのではないかと。</li> </ul>
<p>(事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、ジェネリック薬品の周知や、健診後の受診の強化、医療費通知の送付など、医療費を抑えることを考えて実施してきた。今後も、医療費を抑えることを大前提に、進めていきたい。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度改正時の負担は、今後の税制改正もある中、なだらかなパターンが良い。</li> </ul>
<p>(会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の具体的な税率改正を検討するために、協議の意見から、パターン②(1億5千万円増額のケース)を基に進めていくことでよろしいか。</li> </ul>
	<p>(異議なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・では、パターン②を基にして進めるということで、よろしく願いしたい。</li> </ul>
<p>委員 (事務局)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診の受診やジェネリック医薬品の勧奨についての考え方はどうか。</li> <li>・健診受診率、ジェネリック医薬品の使用割合とも、保険者努力支</li> </ul>

委員

(会長)

援制度において交付金の算定対象項目であり、より向上させるよう推進してまいりたい。

- ・日本人は薬をもらいたがる傾向があり、残薬も多く、期限内に必要な分だけの薬を服用するよう、教育が重要である。また、ジェネリック医薬品は、成分自体先発品と変わらない。薬局でも残薬があれば処方を変えられるし、市広報も活用して啓発していくことが望まれる。
- ・健康教育、健康増進は重要である。

その他

○ 事務局説明：土浦市国民健康保険運営協議会の開催予定

(平成30年1月25日15時から)

を説明

11:40 終了